

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2020年 第5週（1月27日～2月2日）

今週のコメント

～インフルエンザ～ 咳エチケット、手洗い、マスクの着用が重要

定点把握感染症

「インフルエンザ 減少するも注意報超え続く」

第5週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は2,155例であり、前週比6.6%増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、伝染性紅斑、水痘の順で、定点あたり報告数はそれぞれ5.74、3.16、0.49、0.41、0.31、0.31であった。

感染性胃腸炎は前週比3%増の1,131例で、南河内8.94、中河内7.05、泉州6.60、大阪市北部6.43、三島5.82である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は前週比19%増の623例で、南河内4.75、堺市4.74、北河内4.33であった。

RSウイルス感染症は前週比4%増の97例で、大阪市西部1.00、泉州0.85、南河内0.75である。

咽頭結膜熱は前週比29%増の81例で、三島0.71、中河内0.55、大阪市南部0.50であった。

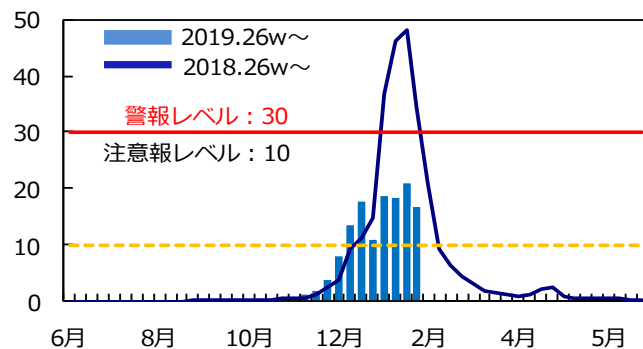
伝染性紅斑は前週比7%減の62例で、南河内0.88、大阪市東部0.67、泉州0.40である。

水痘は前週比5%減の62例で、大阪市西部1.00、三島0.53、大阪市北部0.50であった。

インフルエンザは20%減の5,065例で、定点あたり報告数は16.88であった。大阪市西部25.29、南河内22.13、中河内19.40、泉州18.61、北河内17.95である。府内全地域で注意報レベルの10を超えている。

インフルエンザ

(定点あたりの報告数)



感染性胃腸炎

(定点あたりの報告数)

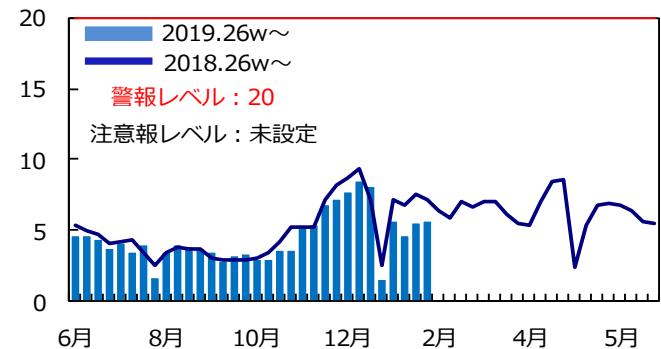


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2020年 第5週1月27日～2月2日）

第5週の順位	第4週の順位	感染症	2020年 第5週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2019年 第5週の 定点あたり 報告数	2020年第5週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	5.74	3%増	7.20	1歳_15%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.16	19%増	2.25	4歳_15%
3	3	RSウイルス感染症	0.49	4%増	0.58	1歳未満_36%
4	6	咽頭結膜熱	0.41	29%増	0.33	1歳_23%
5	4	伝染性紅斑	0.31	5%減	0.48	5歳_19%
5	5	水痘	0.31	7%減	0.31	7歳_18%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	16.88	20%減	34.63	10-14歳_20%

第5週のコメント

～侵襲性肺炎球菌感染症～ 大阪府では毎年250例以上の報告があります

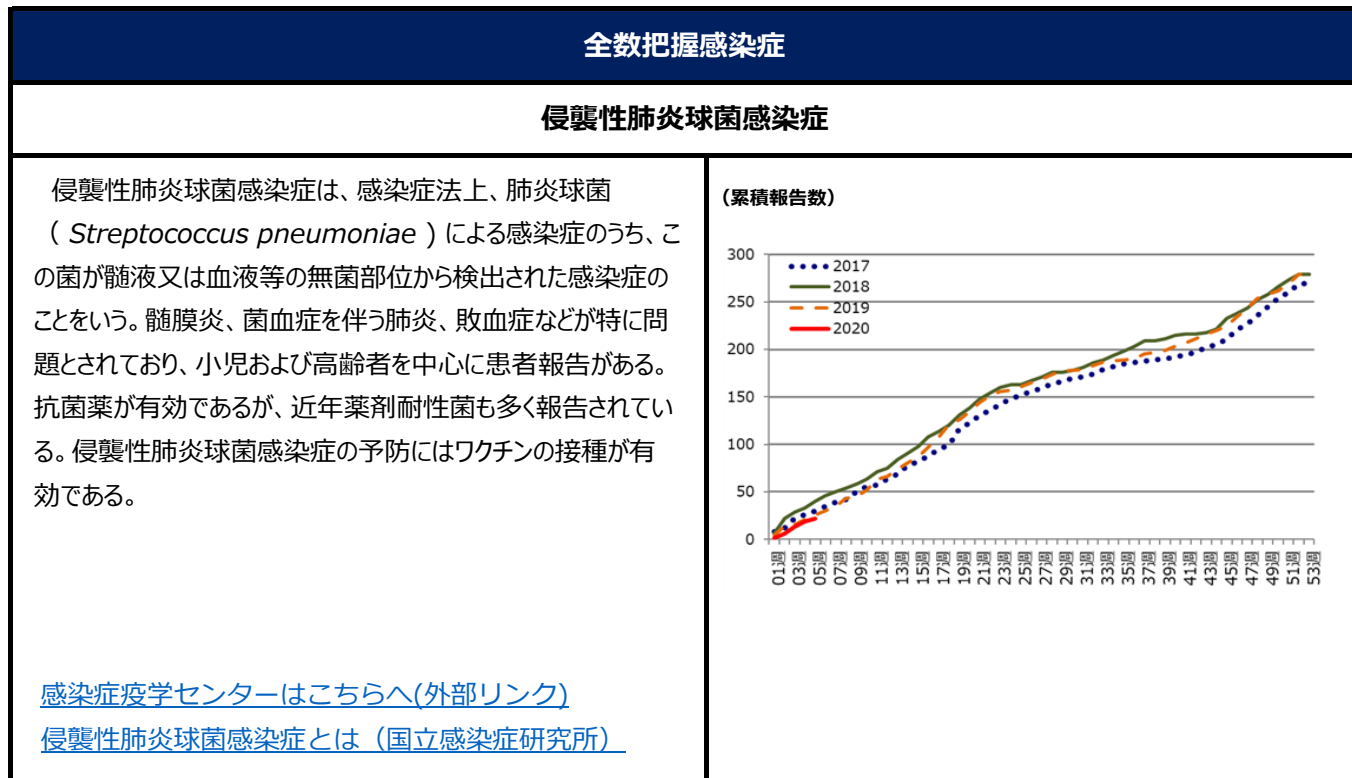


表2. 大阪府全数報告数（2020年 第5週1月27日～2月2日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】発生動向調査＞全数報告 をご覧ください。）

	疾患名 〔 〕内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告 数	豊 能	三 島	北 河 内	中 河 内	南 河 内	堺 市	泉 州	大 阪 市	府 内 累 積 報 告 数
3 類感染症	細菌性赤痢 (<i>S. flexneri</i>)	1								1	1
	腸管出血性大腸菌感染症	2								2	7
4 類感染症	E 型肝炎	1			1						1
	レジオネラ症 (肺炎型)	1						1			14
5 類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2							1	1	16
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1					1				8
	侵襲性肺炎球菌感染症	3				1	1			1	22
	梅毒	6			1					5	83
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1			1						4
	百日咳	3	1							2	23
結核 (2019年12月分)	結核 新登録患者数：145名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 52名) (府内累積報告数 1,636名、内 肺・喀痰塗抹陽性 638名)										

(2020年2月4日 集計分)